

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

心の中を見つめよう
博愛を広げるために

第 2430回 例会

平成24年1月13日(金)

天候 晴れ

合唱 奉仕の理想

四つのテスト

会長 伊藤 伸之

幹事 望月 博文

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 1-14-25

中川方 TEL/FAX 0465(62)3056

例会場 静岡県熱海市泉 107/TEL0465(63)3721

ニューウェルシティ湯河原

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

先週行われた理事会で決定された事です。友好クラブである立山RCとの周年記念で立山RCに行くための費用負担についてです。

- ① メーキャップ料×人数
(今回2,000円/1人)
- ② スマイル ¥10,000円
- ③ 旅費 ¥10,000円/1人
- ④ ガソリン代 ¥10,000円/1台
- ⑤ 有料道路代 ¥10,000円/1台
- ⑥ 土産代 (今回はみかん2箱7,000円)

以上が理事会で決まりました。宜しくお願い致します。

年も明け皆様方大変お忙しいこととお察ししますが、いよいよ50周年記念式典に向けて会員皆様方のご協力で行きたいと思っております。

1月25日のIMについて湯河原クラブから石倉会員が代表で実行委員会に出ておられます。次年度は湯河原クラブがホストですからIMには全員参加でお願いいたします。

以上会長挨拶終わりです。

幹事報告

ガバナー

1. 「新財団補助金に関する勉強会」開催
2/8(水) 14:30~16:30 第1相澤ビル
6F会議室

連絡事項

1. I. M 1/25(水) 14:30 受付
15時点鐘 鈴廣 鈴の音ホール

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 0名	
	会員 26名	欠席 0(2)名	出席率 100%
	前回の修正出席率 100%	前々回の修正出席率 100%	

卓話

石川 博君

文部科学省の国語審議会では「外来語の表記」で、球技を意味する場合は「ボウリング」と表記する答申が1991年に出されています。他方で「ボーリング」と表記される場合もありますが、掘削のボーリングと誤解されることがあります。

日本での漢字表記は十柱戯。ワールドゲームズ参加競技、アジア競技大会の正式競技種目で国民体育大会の正式競技種目で、ソウルオリンピックでエキシビジョンゲームに採択されました。

起源から現在

もともとボウリングは倒すピンを災いや悪魔に見立てて、それを沢山倒すことが出来たら、その災いから逃れることが出来るという一種の宗教儀式でした。その歴史は古く、紀元前5000年頃には古代エジプトにおいて墓から木で出来たボールとピンが発掘された事から、その頃からボウリングに似たようなものがあって言われています。

しかし倒すピンの数やそれに応じた並べ方も場所や地域によって様々でした。それを中世ドイツのマルティン・ルターが倒すピンを9本にし、並べ方も菱形に統一していったことが近代ボウリングのルールの原型になっていったと考えられています。9本という決められた数のピンを倒すと言う行為は、やがてナインピンズ・ボウリングという一つのスポーツとして派生し宗教家の間では人気のあるスポーツとして栄えました。このことから宗教革命家と知られるルターは、現在のボウリングの基本的なルールを統一した意外な功労者でもあると言えます。また、ドイツの一部の地域では、未だにその名残としてピンの数が9本でプレイする地域も存在します。

17世紀になると多数の宗教家(清教徒)たちがアメリカに移住したことで、アメリカでもボウリングが盛んになりました。アメリカでは更にボウリングを面白くするためにピンの数を10本に増やし、並べ方も正三角形に変化していったのが現代のテンピンズ・ボウリングだとされています。

日本では、今から約150年前の1861年（文久元年）6月22日に、長崎の大浦居住地に初めてのボウリング場「インターナショナル・ボウリング・サロン」が開設されました。これを記念して現在6月22日はボウリングの日とされています。なお、当時、坂本龍馬が長崎に居留していた英国人グラバーと交流があったことから日本ボウリング資料館の開館を報じるボウリングマガジン誌において龍馬が日本人初のボウリングプレイヤーであるかも知れないと言う記事が掲載されたことがあります。

戦後の主な出来事としては、1952年（昭和27年）国から払い下げを受け、六本木に東京初の民間ボウリング場「東京ボウリングセンター」がオープンしましたが、当時ボウリングはまだ珍しいもので、上流階級の人たちだけが出入りする特別な場所でした。そのためか一年で経営破綻し第一ホテル（現・阪急阪神ホテルズ）に経営を移譲し、同グループの吉祥寺第一ホテルに全施設を移設し、現存して跡地はTEPIAとなっています。

1961年（昭和36年）頃から、それまでピンボーイと呼ばれる人が倒れたピンを元通りにするという人力に頼ったものから、自動的にピンを元通りにする機械化が普及していきました。

1970年（昭和45年）の終わり頃、スコアをボウラーが計算しなくても済む計算機能をもった機械が実用化され始めました。この頃から、日本では空前のボウリングブームが始まりました。当時ボウリング場は3880センターを越えていましたが、現在は約1000センターまでに減っています。

更に、1970年前後にはスタープレイヤーである須田開代子・中山律子らの出現などがきっかけとなって、当時は数百メートル毎にボウリング場があった程ボウリング・ブームと呼ばれる流行振りを示しました。このブームは1973年（昭和48年）の石油危機により一旦収束しますが1979年（昭和54年）頃から人気は再燃し、当初のブームには至らないものの現在では安定した人気を得ています。

現在もスポーツ人口が増えており、体操と並んで国民に最も馴染みの深いスポーツの一つです。また、スポーツ競技と定義されていますが、男女を問わず手軽な集団レクリエーション・ゲームとしても浸透しており、あまり経験のない人も参加しやすい性質を持つと言えます。

レーン

材質は、ウッド（手前側がメイプル（楓）、奥側がパイン（松）の組み合わせ）です。

レーン幅は1,066mmで39枚の板からなっています。レーンの長さは、23.72m。レーンの一番手前にある「ファールライン」より一番手前の一番ピンまで60フィート（18.288m）です。

ピン

中に、重量調整のため空洞が設けてあり、これによりボールが当たった時に爽快な音が出るようになっています。材質は楓で高さは38.1cm、最大径は世界共通の大きさで12.1cm、重さは約1.6kgです。

ボール

直径約21.8cm、重さは4ポンド（1.81kg）から16ポンド（7.25kg）と規定されています。ハウスボール、即ちボウリング場に用意されているボールはポンド刻みですが、マイボール、個人所有のボールはより細かく、ポンド、オンス（1ポンドは16オンス）で表されます。重いボールはピンに弾かれにくいですが、重すぎるとスピードや回転が少なくなってしまうため、体力や技術にあった重さを選ぶのが肝要です。特に、ハウスボールの場合は、親指中指薬指がきつ過ぎずゆる過ぎずきつちりと所定の関節まで入るボールを選ぶことが大切で

ピンセッター

レーンの奥にあり、ボウリングの倒れたピンを回収し、自動的にピンをセットする機械のことです。ピンとボールを回収し、ボールとピンを分別し、ボールはプレイヤーに戻し、ピンは向きをそろえて立て直します。ボウリングにおいて最も主要な装置であり「ボウリング・マシン」と呼ばれることもあります。日本のボウリング場で使われているピンセッターは、三井物産系のBrunswick（ブランズウィック）と伊藤忠系のAMF（エーエムエフ）とダイフク機工のBOWL-MOR（ボールモア）と古川鋳業のODIN（オーディン）の4つが主なメーカーです。尚、弊社のパッキーボールはブランズウィックのピンセッターです。

ボウリングと健康

1. 適度な運動量で、健康作りに役立つ
ボウリングは手軽ですが、意外に運動量があります。ボウリング3ゲーム（約30分）はテニスなら約20分、ゴルフなら約33分、散歩なら約80分、ラジオ体操なら約50分、キャッチボールなら約40分の運動量に匹敵します。それでも疲れにくいのは、1球投げて次ぎに投げるまでに間隔があり、自然に休むことになるからです。
2. 心臓に負担をかけず、運動効果大
年齢が上がるにつれ、心臓に負担のかかるスポーツは危険になってきます。60歳の方なら心拍数が1分間に80～112。70歳の方なら1分間に75～105のペースでできる運動が安全で最も効果が高いとされています。その値に、見事に合致するのがボウリングです。
3. 生活習慣病、転倒事故を防ぐもと
全身運動により新陳代謝を活発にして血行を促進するので、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の予防に役立ちます。
また、膝の屈伸運動のよって知らず知らずのうちに足腰を強化しているため、高齢者に多い転倒事故の防止にもつながります。
4. 手軽で楽しく、何歳からでも始められる
手軽で楽しいからでしょうか、日本で最も参加人口の多いスポーツはジョギングでも水泳でもなく、ボウリングです。年齢を問わずに参加出来るため、年々シニアの方も増え、現在では全国に200万人を越えるシニアボーラーがいると言われています。
5. 季節・天候に左右されず、安心・安全
ボウリングは屋内スポーツですから、一年中、どんな天気でも楽しむことが出来ます。炎天下や雨雪風の心配のある屋外競技に比べて、安心・安全であることは言うまでもありません。
6. 友人が出来、仲間との交流が図れる
シニアの方を対象にしたアンケートによると「ボウリングを始めてから友人が増えた」という意見が78%を占めました。親しい仲間との楽しい時間の共有こそ、充実したシニアライフの何よりの支えです。
7. これからの生涯スポーツとして最適
健康作り、仲間作りをしながらおおいにエンジョイ出来るのがボウリング。ペース配分を考え、自分の体力にあわせて続けられるという特徴も、シニアの皆さんの生涯スポーツとして最適です。